

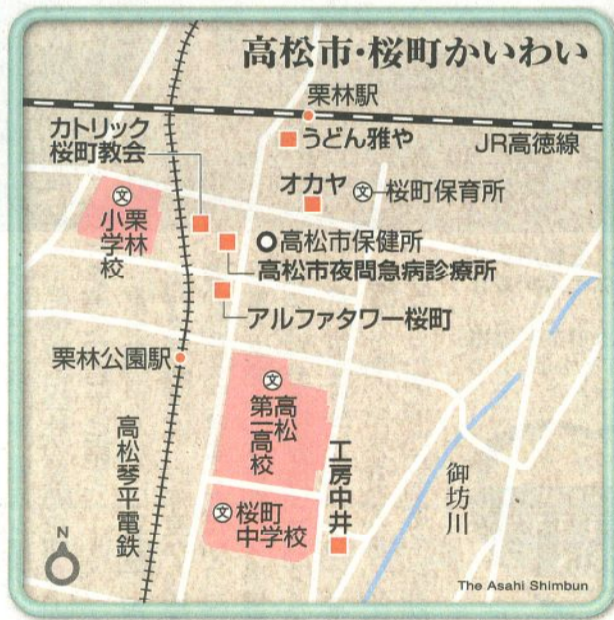
高松市・桜町かいわい

教会心のよらぶらに

マンションが立ち並び、文教地区としても知られる高松市桜町。高松琴平電鉄の線路沿いに、赤い屋根の建物と、十字架が目立つ背の高い塔があった。カトリック桜町教会。55年の歴史を持ち、住民や外国人の心のよりどころとなっている。



背の高い塔と赤い屋根が特徴のカトリック桜町教会。幼稚園(左)が隣接している



日曜の午前10時、カトリック桜町教会から清らかな鐘の音が鳴り響く。天井が高く、広々とした聖堂で、レナト・フィリッピニ神父(41)が聖書の一節を朗読し始める。集まった信者たちは静かに聴き入った。

現在の聖堂が完成したのは1957年。その2年前に五番町教会(現・番町教会)から桜町教会として独立した時、信者数は約30人だったという。現在はカトリック高松教区の拠点として、四国4県の布教活動を統括している。

石造りの聖堂は、兵庫県芦屋市のカトリック芦屋教会と同じ図面を使って建てられた。旧住友銀行本店(大阪・北浜)などを手がけた建築家の故長谷部鋭吉の設計だ。当時は高い建物が他になく、港からも塔が見えたという。

聖堂にはもう一つ、兵庫との縁がある。キリストが水をブドウ酒に変えるなど聖書の場面を描写したステンドグラスは、95年の阪神大震災で半壊して取り壊された中山手カトリック教会教会聖堂では子どもたちがイエス・キリストの生涯を演じた4月1日、高松市桜町1丁目

97年に来日し、昨年5月に高松に赴任したレナト神父は「教会は普段から使ったうえで、天上だけでなく、地上でどう暮らすかも大事です」と語る。「高松の夏は暑いですが、教会は石造りだから涼みに来てくださーい」と呼び掛けた。先月あった「復活祭」の子ども劇では、キリストの十字架での処刑、復活などを小学生らが演じた。イエス役を演じた中学1年の長谷川怜さん(12)は「終わってほっとした」と笑った。(柳谷政人)

(神戸市中央区)から譲り受けたものだ。東日本大震災から1年後の3月11日にはチャリティコンサートが開かれ、大勢の人がキャンドルに火をともして祈りを捧げた。高松市の国際化に伴って、教会のミサも外国人の姿が増えた。89年から英語でのミサを始め、93年からスペイン語でも行っている。留学生や結婚で移住した外国人が悩みを相談し合う貴重な場になった。チェロのコンサートや結婚式、葬式でも使われている。